

医鍼連携研修

2年コース(全20回)

研修
会場

東京大学医学部
附属病院

チーム医療の一員として、治療方針を立て、結果を出せる臨床力を身につける!

2022年春開講の4期生を募集

患者ニーズの多様化に伴い、医療における多職種連携が進んでいます。鍼灸治療においても、従来からの同意書による連携に止まらず、診療情報提供書等で医療機関とより広く連携することが求められます。

本研修では、医療の一翼としての鍼灸治療を担っていくことができる人材を育成します。

- 医師による現代医学の講義があり、**西洋医学の視点**からも学べる
- **現代鍼灸・中医鍼灸・経絡治療の理論と臨床**を学べる
- 研修受講後、**病院実習の機会**を提供する
- 主な講師陣
現代医学 津田篤太郎(NTT東日本関東病院リウマチ膠原病科部長)
須田 万勢(諏訪中央病院 リウマチ膠原病内科・総合診療科)
現代鍼灸 粕谷 大智(東京大学医学部附属病院リハビリテーション部 鍼灸部門主任)
中医鍼灸 横田 篤広(東京医療福祉専門学校専任教員)
経絡治療 相澤 良(日本伝統医学研修センター所長)

4月・8月を除く各月第3日曜日
9:30~17:00(現代医学・現代鍼灸・中医鍼灸・経絡治療 各1単位)

【受講料】

1年次(10回) 100,000円

2年次(10回) 100,000円

※別途、実技実費等

【募集人数】 30名

【応募締切】 2022年3月15日

【応募方法】 HPをご覧ください

Common diseaseへの対応を確実に身につける

- 臨床で扱うことが多い12疾患について学ぶ【1年次、一部2年次】

頸肩腕痛、肩関節痛、腰痛、腰下肢痛、膝痛、頭痛、めまいと耳鳴り・難聴、呼吸器疾患、便秘と下痢、婦人科疾患、不眠、疲労・倦怠感

- 「現代医学」「現代鍼灸」「中医鍼灸」「経絡治療」の切り口で、同一疾患にアプローチ

中医鍼灸



臨床力の強化

- 少人数による実技
- ニーズ拡大分野にアプローチ【2年次】

現代医学: 悪性腫瘍と緩和治療、リウマチ膠原病、皮膚科学概論

現代鍼灸: 抗がん剤副作用、関節リウマチ、顔面神経麻痺

中医鍼灸: 中風(脳血管障害)、婦人科・不妊治療、アレルギー

経絡治療: がん関連症状、自律神経失調症

- 模擬治療を活用した治療構成力のレベルアップ【2年次】

経絡治療



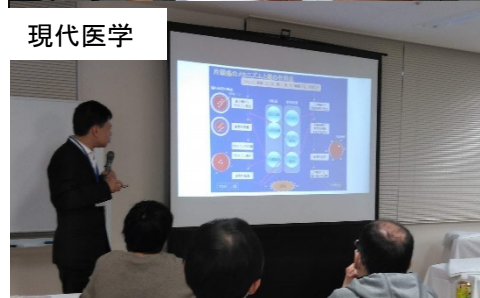
総合力の育成

- 画像診断について【2年次】
- カルテ・診療情報提供書の書き方(ワークショップ)【2年次】
- 東洋医学的な考え方について系統的な講義【1年次、一部2年次】

現代鍼灸



現代医学



「医療鍼灸協会」は、医鍼連携の推進と連携を担う鍼灸師を育成する目的で設立された団体です。医鍼連携とは「医療機関と鍼灸師が連携する」という意味で、具体的には、病院の中で鍼灸を行う、クリニックや在宅医療機関と鍼灸師が連携して一人の患者さんを診るなど、医療機関で行われるチーム医療の一員として鍼灸師が参加することです。<https://www.iryoshinkyu.com>

